

引用文献

- 安達 瑞穂, 田中 英高, 山口 仁, 松島 礼子, 中村 圭助, 山田 孝太, 中谷 早余, 足立 芙美, 渡 美貴, 金 泰子, 寺嶋 繁典. (2007). 不登校ならびに引きこもりに対する包括的支援ネットワークによる活動(第2報) メンタルサポートシステムの活動概要とその意義. *子どもの心とからだ*, 16(1-2), 45-54. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/2008091676>
- 安藤 公. (2004). 児童思春期の不登校とひきこもり 児童思春期精神科クリニックの外来統計から. *思春期青年期精神医学*, 14(2), 171. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/2005049112>
- Antonovsky, A. (1987). UNRAVELING THE MYSTERY OF HEALTH How People Manage Stress and Stay Well, Jossey-Bass. (アーロン・アントノフスキー. 山崎 喜比古・吉井 清子(監訳)(2001). 健康の謎を解く ストレス対処と健康保持のメカニズム, 有信堂高文社.)
- 青田 泰明. (2006). 不登校現象にみられるジェンダー問題—経験者の語りから—. *子ども社会研究*, 12(6), 3-14.
- 傳田 健三. (2017). 特集:心身医学の臨床における発達障害特性の理解 自閉スペクトラム症(ASD)の特性理解. *心身医学*, 57, 19-26. <https://search.jamas.or.jp/link/ui/2017101382>
- Bowlby, J. (1988). A Secure Base Clinical applications of attachment theory. Routledge. (J.ボウルビー. 二木武(監訳)(1993). 母と子のアタッチメント 心の安全基地, 医歯薬出版株式会社)
- Glaser, B.G., & Strauss, A.L. (1967). The Discovery of Grounded Theory: Strategies for Qualitative Research. New York. (グレイザー, B .G.& ストラウス, A.L. 後藤隆・大出春江・水野節夫(訳) (1996). データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか 新曜社)
- 日吉 真美. (2019). 「ひきこもり」当事者が乗り越えてきたもの 全国のひきこもり地域支援センターを利用している当事者の主観的な体験に着目して. *社会福祉学*, 60(3), 52-62. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/2020154449>
- 堀切川 尚人, 小鍛冶 良真, 大戸 普賢, 門長 裕美, 森川 敦子. (2019). 外出時のパニック発作により長期間不登校となっていた症例に対する認知行動療法を用いた在宅訪問の試み. *日本作業療法学会抄録集*, 53, OI-4. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/2020133286>
- 五十嵐 隆. (2022). 児童・思春期精神疾患の診療実態把握と連携推進のための研究.[ウェブサイト]. https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/download_pdf/2020/202018045A.pdf(検索日 2023 年 9 月 8 日)

- 石井 京子, 藤原 千恵子, 河上 智香, 西村 明子, 新家 一輝, 町浦 美智子, 大平 光子, 上田 恵子, 仁尾 かおり. (2007). 患者のレジリエンスを引き出す看護者の支援とその支援に関与する要因分析. 日本看護研究学会雑誌, 30(2), 21-29. <https://search.jamas.or.jp/link/ui/2007276733>
- 石崎 優子.(2017).特集: 心身医学の臨床における発達障害特性の理解 子どもの心身症・不登校・集団不適應と背景にある発達障害特性. 心身医学,57(1),39-43.
<https://search.jamas.or.jp/link/ui/2017101384>
- 一般社団法人 日本精神科看護協会. (2021). 精神科訪問看護に関わる実態及び精神障害にも対応した地域包括ケアシステムにおける役割に関する調査研究.[ウェブサイト].
<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000798639.pdf>(検索日 2022 年 4 月 25 日)
- 小柴 孝子.(2017). 不登校発生の背景要因に関する研究 不登校経験者による内省的語りの質的分析. 家族心理研, 31(1),43-55. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/2018014168>
- 小柴 孝子, 谷口 清.(2013). Pg-013 不登校生徒の内省的語りの質的分析(臨床,ポスター発表). 日本教育心理学会総会発表論文集, 55(0),561. doi:10.20587/pamjaep.55.0_561
- 厚生労働省. (2023). 精神保健福祉資料. [ウェブサイト].
<https://www.ncnp.go.jp/nimh/seisaku/data/630.html> (検索日 2023 年 8 月 20 日)
- 栗谷 とし子, 中谷 久恵, 正木 千恵, 安達 美樹. (2003). 保健室登校における不登校児童の関わり. 島根女子短期大学紀要, 41, 47-54.
- Maslow, A.H. (1970). Motivation and Personality. (Second Edition). Harper & Row. (A.H.マズロー. 小口忠彦訳. (1987). [改定新版]人間性の心理学 モチベーションとパーソナリティ. 農業能率大学出版部.)
- Masten, A.S. (2014). Ordinary Magic: Resilience in Development. The Guilford Press. (アン・マステン. 上山 眞知子, J・F・モリス(訳) (2020). 発達とレジリエンス 暮らしに宿る魔法の力. 明石書店.)
- 宮良 淳子, 柴 裕子.(2017). 不登校から社会に巣立つことを決めた当事者の思いプロセス. 日看研会誌, 40(3),439. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/2018023287>
- 水沼 幸恵, 福山 菜香, 松原 郁子, 道野 敦美, 保坂 美枝子, 内田 直子. (2017). 不登校からフリースクール見学への意思表示までの変化. 精神科通信, 3, 58-62.
<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2017359012>
- 文部科学省.(2003). 不登校の現状に関する認識. [ウェブサイト].
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/futoukou/03070701/002.pdf (検索日 2022 年 4 月 25 日)

- 文部科学省. (2005). 発達障害のある児童生徒などへの支援について.[ウェブサイト].
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/gakuseishien/1290235.htm(検索日 2024 年 1 月 15 日)
- 文部科学省. (2007). 児童生徒の教育相談の充実について一生き生きとした子どもを育てる相談体制づくり(報告).[ウェブサイト].
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/066/gaiyou/1369810.htm(検索日 2024 年 1 月 15 日)
- 文部科学省. (2010). 特別支援教育について.[ウェブサイト].
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1298170.htm(検索日 2024 年 1 月 15 日)
- 文部科学省. (2011). 児童生徒の問題行動等生活指導上の諸問題に関する調査.[ウェブサイト].
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afiedfile/2019/01/04/1412082-2302.pdf(検索日 2023 年 8 月 20 日)
- 文部科学省. (2014). 「不登校に関する実態調査」～平成 18 年度不登校生徒に関する追跡調査報告書～. [ウェブサイト]. https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1349956.htm. (検索日 2023 年 12 月 20 日)
- 文部科学省. (2019). 不登校児童生徒の支援の在り方について(通知). [ウェブサイト].
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1422155.htm(検索日 2024 年 1 月 12 日)
- 文部科学省. (2021). 不登校児童生徒の実態把握に関する調査報告書.[ウェブサイト].
https://www.mext.go.jp/content/20211006-mxt_jidou2-000018318_03.pdf(検索日 2024 年 1 月 12 日)
- 文部科学省. (2022). 児童生徒の問題行動等生活指導上の諸問題に関する調査.[ウェブサイト].
https://www.mext.go.jp/content/20221021-mxt_jidou2-100002753_1.pdf(検索日 2023 年 8 月 20 日)
- 村上 元, 森元 隆文, 池田 望. (2015). 母子への訪問支援により再登校が可能となった一例. 作業療法, 34(5), 564-570. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/2016039922>
- 村松 智美, 豊島 未紗. (2008). 発達障害児の不登校へのホームスクーリングシステム(家庭訪問支援)の実践. 心療内科, 12(6), 497-503. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/2009053630>
- 中平 洋子, 野嶋 佐由美. (2016). 精神障害者家族の Family Resilience としての Living System 力の発現. 家族看護学研究, 22(1), 2-14. <https://search.jamas.or.jp/link/ui/2017060584>

- 中根 由香子, 古志 めぐみ, 青木 紀久代, 岩藤 裕美. (2018). ひきこもり当事者の学校生活に関する語りから考える不登校支援. 高等教育と学生支援 : お茶の水女子大学紀要, 9,55-64.
<https://ci.nii.ac.jp/naid/120007173182/>
- 名手 千晶, 齋藤 和彦. (2020). 【児童思春期の精神疾患患者の理解とケア】児童思春期の精神的な問題への支援 精神疾患(精神保健問題)の子どもを支える訪問看護による支援. 小児看護, 43(1), 62-68. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/2020089421>
- 内閣府. (2008).ユースアドバイザー養成プログラム. [ウェブサイト].
https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/h19-2/html/ua_mkj.pdf.html (検索日 2023 年 10 月 16 日)
- 内閣府.(2013). 障害者白書. [ウェブサイト].
https://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/h25hakusho/zenbun/h1_01_01_04.html (検索日 2022 年 4 月 25 日)
- 野末 武義. (2017). 特集/リハビリテーションに役立つ心理療法 家族療法. MB Med Reha, 208, 39-43.
<https://search.jamas.or.jp/link/ui/2017221560>
- 小鍛治 良真, 浪花 里依, 大戸 普賢, 野中 美志, 森川 敦子. (2019). 不登校児に対する切れ目のない支援モデル 引きこもり生活から脱却した自閉スペクトラム症児の事例を通して. 日本作業療法学会抄録集, 53, PI-1F02. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/2020132979>
- 大高 一則. (2021). 現代の不登校一当院通院症例を通しての一考察一, 児童青年精神医学とその近接領域, 62(2), 149-161. <https://search.jamas.or.jp/link/ui/2021324101>
- Rapp, C.A,& Goscha,R.J. (2012). The Strengths Model A Recovery-Oriented Approach to Mental Health Services Third Edition. (チャールズ・A・ラップ, リチャード・J・ゴスチャ. 田中 英樹 監訳. (2014). ストレngthsモデル リカバリー志向の精神保健福祉サービス[第3版]. 金剛出版.)
- 齊藤 万比古. (2008). 思春期のひきこもりをもたらす精神科疾患の実態把握と精神医学的治療・援助システムの構築に関する研究. [ウェブサイト]. <https://www.khj-h.com/wp/wp-content/uploads/2018/05/kourousyo19.pdf>(検索日 2022 年 4 月 25 日)
- 齊藤万比古. (2017). 増補不登校の児童・思春期精神医学. 金剛出版.
- 坂田 三允. (2009). 精神看護エクスペール 精神科訪問看護[第2版]. 中山書店.
- 柴 裕子, 宮良 淳子. (2017). 不登校を続けていく当事者の思いのプロセス. 日看研会誌. 38(3), 253.
<http://search.jamas.or.jp/link/ui/2016128744>
- 島田 裕子. (2019). 不登校児童生徒のスピリチュアルペイン 教育におけるスピリチュアルケアをめざして. スピリチュアルケア研, 3,13-26. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/2020057677>

- 下條 こなみ, 種浦 佐智子, 花田 裕子, 永江 誠治. (2012). 児童期・思春期に不登校を起こした青年の被養育体験と自立の課題. 日本看護学会論文集.精神看護, 42, 202-205.
<https://ci.nii.ac.jp/naid/120006986700/>
- Strauss, A. & Corbin, J. (2008) Basics of Qualitative Research: Techniques and Procedures for Developing Grounded Theory (3rd ed), (ストラウス, A.L. & コービン, J. 操華子・森岡崇(訳) (2012). 質的研究の基礎—グラウンデッド・セオリー開発の技法と手順 第3版 医学書院)
- 菅谷 智一, 森 千鶴. (2018). 児童・思春期精神科外来を受診している中学生の対人関係と居場所感の特徴. 児童青年精神医学とその近接領域, 59(1), 86-99.
<https://search.jamas.or.jp/link/ui/2018279386>
- 社団法人 全国訪問看護事業協会. (2010). 精神科医療の機能強化に関する調査研究事業報告書. [ウェブサイト]. <https://www.zenhokan.or.jp/wp-content/uploads/h21-3.pdf> (検索日 2022年4月25日)
- 高橋 三郎, 大野 裕. (2014). DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル. 医学書院.
- 高橋妙理. (2022). 不登校の子どもをもつ母親にとっての精神訪問看護を利用する体験[未公表の修士論文]. 聖路加国際大学大学院看護学研究科.
- 手代木 理子. (2009). いじめ問題を巡って いじめられ体験の反応と回復過程. 小児保健研究, 68(2), 209-211. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/2009156739>
- 富岡 理恵. (2006). 不登校を経験した生徒の学校体験—サポート校の生徒の「中学生になること」の語りから. 子ども社会研究, 12, 44-56. <https://ci.nii.ac.jp/naid/40007430000/>
- 安岡 祐二, 森川 敦子, 光森 数彦, 大戸 普賢. (2017). 不登校児に対して在宅訪問を実施した取り組みについて ゲーム依存症により不登校になった症例を通して. 日本作業療法学会抄録集, 51, OI-5. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/2018165999>
- 山本 充, 三森 寧子. (2020). 不登校支援のあり方の検討 不登校から社会で活動できるようになった経験者の語りから. 日公衛看会講集, 8, 133. <http://search.jamas.or.jp/link/ui/2020292080>
- 全国児童青年精神科医療施設協議会. (2019). 外来初診患者統計. [ウェブサイト]. <http://jccami.jp/login/toukei/> (検索日 2022年4月25日)